

3泊4日の家族旅行がもたらした変化

山陽小学校 保護者 小坂 恵

私たち夫婦は旅行が好きで、子供が生まれ
ても年に1度は旅行に行っている。昨年は長
女の高校受験ということもあり、初めて旅行
を断念した。その前の旅行は、末っ子がお腹
にいる時だった。なので、今回は2年半振りで、
8人家族になって初めての家族旅行になる。
気合満々の夫から、末っ子を大好きな恐竜
で喜ばせたいと、福井県が提案された。岡山

から福井まではかなり距離があり、子供6人
連れなので、余裕をもって3泊はしたい。し
かし、末っ子はじっとするのが苦手なタイプ
で、外食や通園にも苦勞している。3泊もし
たら、ストレスフルになることは目に見える。
それに、思春期の娘達は嫌がらないだろうか。
私の子感には的中し、長女からそっけなく、
「恐竜は別に興味ないし、留守番しとく」と
言われた。もつと上の子達が楽しめる場所
に変更しようかとも考えたが、来年、再来年

は、また受験なので宿泊はしない。それに、行き先を変えたところで旅行について来る保証もない。荷物が多くて計画も大変だけど、遠くに行けるチャンスだと考えることにした。

小学5年生の長男が計画を立てたいと、夕グレットで、観光地やホテルの一覧をつくってくれてとても助かった。しおりも自分で作成したいと言われたが、最後まで旅程調整をしていたので、次の機会だ。週末、主人を混じえて3人で観光の内容を詰めていると、少

しずつ興味が湧いてきたのか、長女も、一緒に行っても良い、という雰囲気になっていった。しかし、思春期の中高生は父親と衝突することも多く、その度に、もう旅行に行きたくない。と言われ、出発直前までどうなるか、予測がつかない状況だった。

旅行前日になんとか荷物がまとまり、全員そろって出発できたものの、和気あいあいとしたムードではなかった。車内で頻発する小

学生達のゲコカと、中高生から漏れるあーだ
 こーだの不満、慣れない外出で興奮している
 のか大暴れする末っ子。どこへ行っても自分
 中で、配慮や思いやりが見られない子供達。
 「まだく日目でしょ？泊は長いって！
 と叫ぶ長女の正直な言葉は、みんなの気持ち
 を代弁していたと思う。

2日目の恐竜博物館で、巨大な動く恐竜に
 怖がる末っ子を見て、今までトゲトゲして家
 族と距離をとっていた次女が、笑顔を見かせ

る。3日目には、アスレチックや科学館で、
 見て見て！と私が1位。
 と、小学生に張り合う中高生の姿が。笑顔が
 増えると、自然と感想や次への期待が聞こえ
 るようになり、やっとな家族がまとまってきた。
 ただ、いつも以上に暴れ回る末っ子を抱えな
 がらのスケジューリングに、偏頭痛を起こした私
 は、一人ぐったりしていた。この状況に気づ
 いたのか、走り回る末っ子を私から引き離す
 次女。夫と長女も代わる代わる末っ子のご機

嫌をとってくれる。おかげで緊張感と頭痛が和らいで、私もみんなと楽しむことができた。

旅行最後の夕食では、
「長いと思っただけど、もう明日で終わりが。」
と名残り惜しみつつ、3日間の不満を口々に、
笑い話にして盛り上がった。

最終日、暑さと疲労で多少の不満は見えただが、一緒にお土産を選んだり、撮影スポットでふざけて写真を撮ったりと、無邪気に遊ぶ子供達の姿を見られて幸せだった。この日の

夕食は、それぞれ好きなピザを選び、シェアしながら食卓を囲む。思春期に入った娘達とは、顔を合わせば衝突していることもあり、目に映る光景に喜びと切なさが入り混じる。

3泊4日は本当に大変だったけど、家族が久しぶりにまとまった様な気がした。とくに中高生は、今までよりリビングで過ごす時間が増えた。8人そろっての旅行は最初で最後かもしれないが、スポーツ大会など新しい形で家族の絆を深めていきたいと、考えている。